

和菓子の日

今日は、全国和菓子協会が1979年に定めた「和菓子の日」です。これは仁明天皇(在位 833-850年)が神託に基づいて、無病息災、健康招福を祈念し、元号を「めでたい」を表す「嘉祥」に改め、6月16日に16の数に因んだ菓子や餅などを神前に供えたという故事に因んでいます。



今回取り寄せた夏の干菓子:高木屋(金沢市)の紙ふうせん

そもそも「菓子」という語は、中国においては「果物」を意味し、「菓」や「果」と書き表しました。日本では「久佐久多毛能(くさくだもの)」または「古能美(このみ)」と表し、野にある木の実を取って食べたことを意味したとされています。江戸時代頃までは、菓子という語を「果物」の意味として用いていたことが分かっています。ただ、平安時代には、小麦粉を練って揚げた「唐菓子(からかし)*」や飴・餅などが中国から渡来しており、室町時代には「茶菓子」として出される甘い菓子が作られています。さらには、菓として「外郎」も中国から渡来しています**。諸説はありますが、同じ頃「饅頭」も伝わっており、やがて食事以外の間食を指す言葉として「菓子」という語が使われるようになったと言われています。

いずれにせよ、和菓子は移ろう季節を色と形で抽象化したデザインした優れた芸術品でもあり、その世界は奥行きが深いものがあります。そこで、今年7月下旬の夏の特別講座『A 知探Qの夏』では、私が「和菓子の世界」を開講し、生徒と共に学ぶことにしています。ご期待ください。

* 以前、校長ブログでも取り上げた京都、八坂神社前にある亀屋清永の「清浄歓喜団」という菓子にその伝統が受け継がれています。

** 「外郎」と言えば、小田原城近くにある600年の伝統をもつ菓と和菓子の店「ういろう」には小さいながらも外郎博物館があり、その歴史を学ぶことができます。